

北海道シダ植物相調査報告 5 —朝日岳・夕日岳・八剣山(観音岩山)・小天狗岳—

札幌市 武田千恵子

はじめに

北海道は冷温帯から亜寒帯に属しているためシダの種類はさほど多くなく、約 150 種と約 30 雑種が報告されている(海老原 2016, 2017)。しかし北海道は面積が広いので踏査が困難な山岳地帯もあり、詳細に調査されていない地域も多い。また、近年台風地震などの自然災害や開発などで以前あった野生植物が見られないことがある。そのような場所は外来植物がはびこるなど変化が激しいため、今あるシダ植物相を記録に残しておこうと調査を始め、これまでも道央を中心に報告してきた(武田 2016, 2017, 2018, 2019)。今回は札幌市南区郊外の山である朝日岳・夕日岳・八剣山(観音岩山)・小天狗岳の登山道周辺を調査対象とした。

調査方法

調査期間は 2006 年(小天狗岳は 2017 年) から 2020 年である。登山道沿いに踏査し、周辺で観察されたシダ植物を野帳に記録し、同定に最小限必要なだけを集め、標本とした。また高所に着生したもの、希少な種は採集はひかえ写真撮影に留めた。分類体系は日本産シダ植物標準図鑑(海老原 2016, 2017) によった。採集した標本は北海道大学総合博物館陸上植物標本庫(SAPS) に寄贈する予定である。

調査地・調査結果

各調査地で確認したシダ植物を表 1 に示

した。朝日岳と夕日岳は定山溪温泉を挟んで極近くにありシダ植物相も似ているため、調査結果は 1 つにまとめた。

1. 朝日岳 標高 598.1m。岩戸公園コースは入山届箱の所から、豊林荘コースはゲートの所から調査した。主に天然林で豊林荘コースの下部と岩戸公園コースが合流する上部にトドマツ人工林がある。

岩戸公園コースは入口からすぐリョウメンシダの群落が見られ、ミヤマベニシダ、オシダ、ジュウモンジシダなどがある。秋になるとエゾフユノハナワラビも出てくる。上部で登山道が北側に廻るとシノブカグマが現れジュウモンジシダ群落、ゼンマイ群落、オシヤグジデンダ(図 1) が見られる。葉柄が紫褐色のイヌガンソクが見られたが通常は淡緑色から淡褐色である。上部で豊林荘コースと合流するがそのまま豊林荘コースを下るとイワデンダがあり、下部にオシダ、ミヤマベニシダが見られる。原(1992) ではコケシノブ、ワラビ、カラクサシダ、イワオモダカが報告されているが今回は確認できなかった。このうちコケシノブは 1989 年 5 月 26 日に採集され、SAPS に納められている(高橋ほか 2008)。

2. 夕日岳 標高 594m。定山溪神社を過ぎ、入山届箱の所から調査した。見晴らし台から白糸隧道に抜けるコースは現在立ち入り禁止になっている。林内は明るく、上部の林床は笹が優占している。

入口からすぐに砂防ダムがあり、ジュウモ